

	発行者の略号	開隆堂	日文
	書名	ずがこうさく1・2上 わくわくするね／1・2下 みつけたよ 図画工作3・4上できたらいいな／3／4下 力をあわせて 図画工作5・6上 心ひらいて／5・6下つながる思い	ずがこうさく1・2上／1・2下 たのしいな おもしろいな 図画工作3・4上／3・4下 ためたよ みつけたよ 図画工作5・6上／5・6下 みつめて 広げて
ア 教科・ 種目に 共通な 観点	①編集の趣旨と工夫	①一人一人の児童の心を開き、自発的に課題をつかみ、児童自らが創造活動を楽しむような心を育てる教科書を目指して編集されている。	①「かんじる・ためす・つくりだす」活動を通して、予測困難な時代を生き抜き、持続可能な社会の創り手となるための力を育むことを目指している。 ①心が動く、学びを支える、学びを広げる。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	・三つの資質・能力をそれぞれキャラクターで示している。 「知識・技能」;くふうさん、「思考力・判断力・表現力等」;ひらめきさん 「学びに向かう力・人間性等」;こころさん、重点的に育てたい力には、下線を引き、文字の色を変えている。 ・各学年の最初の見開きページには、年間の三つの資質・能力毎の「カリキュラム編成目次」を設定し、教師にとっても1年間の学習の見通しが持てるようにしている。 ・題材の冒頭に三つの育てたい資質・能力に対応した「学習のめあて」を配置している。 ・題材の末尾には、「学習のめあて」の重点的に育てたい力に対応した「ふりかえり」を簡単な言葉で掲載している。 ① 知識・技能に関する内容が各学年の巻末ページに掲載されている。「造形の引き出し」では、学年に応じた用具・材料の知識や使い方が示されている。 ②児童の創造的な発想や構想の手がかりとなるような参考作品や情景写真が大きく掲載されている。 ③2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連した内容を取り上げ、図画工作の学習が身近な社会と結びついていることを示している。(5・6年上 P45)	・各題材の黒板のイラストの中には、三つの資質・能力に基づいた「学習のめあて」が記載されている。 「知識・技能」;手のひら、「思考力・判断力・表現力等」;ハート、「学びに向かう力・人間性等」;双葉のイラスト ・作品の写真やタイトル、吹き出しから資質・能力を発揮している姿が具体的に分かるようにしている。 ①各巻末に「使ってみよう材料と用具」ページが掲載されており写真やイラストで丁寧に解説されている。 ②児童の創造的な発想や構想の手がかりとなるような参考作品や情景写真が大きく掲載されている。 ③2020年東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムを取り上げ、図画工作の学習が身近な社会と結びついていることを示している。(3・4年下 P35)
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①プログラミング教育や小学校英語に対応した内容が掲載されており、未来を見据えた造形活動を示している。 ②さまざまな地域の伝統文化や材料などを積極的に取り上げており、図画工作科が身近な地域・社会につながることを示している。郷土の歴史に関係する造形活動も掲載されている。 ③コミュニケーションを促す題材が複数掲載されており、児童の情操教育にも配慮されている。 ④美術館での鑑賞や活動事例を掲載し、生涯を通して美術を愛好する心を育む内容になっている。	①多文化共生や防災・安全、平和・人権など児童が持続可能な社会の創り手となることを見据えた造形活動のテーマを示している。 ②さまざまな地域と協働して活動する事例や、全国の美術館の活動を紹介しており、図画工作科が身近な地域・社会につながることを示している。郷土の歴史に関係する造形活動も掲載されている。 ③コミュニケーションを促す題材が複数掲載されており、児童の情操教育にも配慮されている。 ④美術館での鑑賞や活動事例を掲載し、生涯を通して美術を愛好する心を育む内容になっている。
(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「学習のめあて」「ふりかえり」が、各題材に表記されている。・様々なキャラクターを用いて、児童にとって親しみやすくなっており、学びのヒントや考えて学ぶ視点を与えている。 ②他教科での学習を生かしたり、関連づけたりした題材や事例が掲載されており、教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントができるように工夫されている。各学年冒頭見開きページには「カリキュラム編成目次」が設定され、育てたい資質・能力を軸に1年間の題材が系統的に図示されている。また、題材の終わりに「あわせて学ぼう」コーナーが掲載されており、他教科とのつながりが分かりやすく示されている。(3・4下 P27 他) ②3学年以上の教科書には図工に関係する英単語が各ページで紹介されており、小学校英語とのかかわりが示されている。(QRコードで発音を聞くことができる) ③作品だけでなく、題名やその理由、工夫した点などの解説から、互いの表現のよさを感じ取ることができる活動を取り上げている。特に鑑賞の題材で、対話やワークシートの活用、作品についての説明など、さまざまな言語活動の様子が掲載されている。 ③オリエンテーションでは、図画工作で大切にしていることや育みたい力について、児童に伝えるメッセージを掲載している。 ④各学年の「みんなのギャラリー」の中で、各地に伝わる伝統工芸や伝承おもちゃ、地域の造形の写真と解説を載せている。材料や製作過程も紹介している。(3・4下 P48 他) ④水墨画や屏風など、表現や鑑賞を通して、我が国や外国の伝統文化に触れられるような題材が設定されている。 ⑤各学年に共同で取り組む作品や他者との関わりを想定した題材が設定されている。また、活動場所も教室・工作室・屋外・美術館など幅広い体験ができるように配慮されている。 ⑤学年が上がっても、同じ材料に繰り返し触れる機会を設定している。 ⑥幼児期に経験する活動を取り入れた題材により、幼稚園と小学校の接続に配慮されている。(1・2上 P47)中学校との接続については、中学生の作品を鑑賞する様子などが紹介され(5・6下 P46)、中学校の美術や技術・家庭へのつながりを意識させる内容になっている。幼児期に行う線描、スタンプ遊びを取り入れた題材(1,2年上巻) 中学生と一緒に活動する様子や中学生の作品を鑑賞する様子を紹介(5,6年下巻) ⑦5,6年の上巻下巻では、プログラミングの基礎となる ICT 機器の使い方やその技術を用いた事例を紹介している。プログラミング的思考が養える題材も取り入れている。(5・6上 P24) ⑧表現をするときに、技能面で必要な情報が得られるように、「造形の引き出し」というページが設定されている。 ⑦タブレットやカメラを使って、表現や鑑賞している様子や、コンピュータを使った作家作品が掲載されている。(5・6上 P46)インターネットに作品を掲載する方法について示すだけでなく、ネットマナーやモラルについての注意事項も掲載している。(5・6下 P57)	①見開き1ページの中に、導入(題材名下のリード文、学習のめあて、用具の使い方)、展開(活動の写真やヒントとなる作品、作り方、作品を見合ったり話し合ったりしている吹き出し)、振り返り(キャラクターの投げかけ、学習のめあてに照らし合わせた振り返り、次の学習への意欲の連続性)という構成で、主体的・対話的で深い学びを実現しようとしている。 ②他教科での学習を生かしたり、関連づけたりした題材や事例が掲載されており、教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントができるように工夫されている。低学年は生活科と関連する題材が複数掲載されている(1・2下 P57)。総合的な学習の時間や特別活動と関連させた活動も掲載されている。(5・6下 P55) ②道徳と関連の深い教材には、道徳マークが示されている。 ②国語(全巻)、社会科(5,6 下)、算数(1,2 上)、理科(3,4 上)、生活科(1,2 上下)、音楽(1,2 下)、家庭科(5,6 上)、総合(5,6 上)、特活(3,4 上)と関連した題材を用意している。 ③特に鑑賞の題材で、対話やワークシートの活用、作品についての説明など、さまざまな言語活動の様子が掲載されている。 ③オリエンテーションでは、図画工作で大切にしていることや育みたい力について、児童と保護者に伝えるメッセージを掲載している。 ④地域での活動や協同する広がりや「図画工作のつながり・ひろがり」で、紹介している。 ④地域・伝統にかかわる活動や題材を複数取り上げており、1,2年下と3,4年上は、校内や地域の催し、3,4年下は日本各地の民芸品、5,6年上は、日本各地の催し、5,6年下は、伝統工芸品を載せている。「みんなとつながる」(3・4上)(3・4下)「地いきとつながる」(5・6上) ④盆栽・焼き物・屏風・浮世絵・水墨画など、伝統的な芸術品に触れられるようなコーナーが設定されている。 ⑤各学年に共同で取り組む作品や他者とのかかわりを想定した題材が設定されている。また、活動場所も教室・工作室・屋外・美術館など幅広い体験ができるように配慮されている。 ⑤学年が上がっても、同じ材料に繰り返し触れる機会を設定している。 ⑥幼児期からの接続ページ(1・2年上p.2・3)では、これまでの経験を振り返り、それらを生かしてこれから図工を学ぶことが示されている。中学校との接続ページ「中学生になるあなたへ」(5・6上 P18,19、下 P64)では、中学校の美術や技術・家庭へのつながりを意識させる内容になっている。 ⑦タブレットやカメラを使って、表現や鑑賞している様子が掲載されている。インターネットに作品を掲載する方法について示すだけでなく、著作権・ネットマナーやモラルについての注意事項も掲載している。(5・6下 P63) ⑦プログラミング的思考を育むため、仕組みや動きを基に思いついたものをつくる活動が設定されている(5・6下 P16)	

		<p>⑨全学年に共通するキャラクターを、各題材に登場させ、学習のめあてを伝えている。</p> <p>⑨各ページ右下に QR コードがあり、スマートフォン等で撮影することにより手順やポイント、用具の使い方などの動画を家庭で保護者も閲覧できる。</p>	<p>⑧表現をするときに、技能面で必要な情報が得られるように「使ってみよう 材料と用具」というページが設定されている。</p> <p>⑨全学年に共通するマークを各題材名の横に表記して、学習のめあてを児童に伝えている。また、五感を使って学ぶ活動は、投げかけるような言葉を複数取り入れている。受け手が主体的に想像しやすい。</p> <p>⑨各題材のページ下にはコメント欄があり、活動で使う主な用具のアイコンや関連の深いページへのリンク、注意事項、かたづけなどが記載されている。</p>
	<p>(I) 分量・装丁・表記等</p> <p>① 各内容の分量とその配分は適切であるか。</p> <p>② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮されているか。</p> <p>③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>①造形・絵画・立体・工作・鑑賞の5領域がバランス良く配置されている。また、1年間の流れに沿って行事や季節に応じて題材を選択できるよう配慮されている。</p> <p>②全体の構成や使用されているマークが統一されていて見やすい。</p> <p>②QR コードが掲載されており、教師や保護者・児童が技法や材料についての動画を視聴できるようにになっている。</p> <p>②色弱の児童へ配慮したカラーユニバーサルデザイン(色の組み合わせを認識しやすいものにしたり、色だけに頼らなくても内容が理解できるように工夫)</p> <p>②水性ペンで書き込んでみてもはじかず、油性ペンで裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。</p> <p>③形やイメージがとらえにくい児童に対してヒントや説明文を追加し、手順や学習の流れをわかりやすくしている。</p> <p>③フォントの丸ゴシック体は目に優しく、学年に応じて大きさや行間が調整されている。説明文が文節で区切られて改行されていたり、写真や絵、図の重なりを少なくしたりする工夫からは、インクルーシブ教育への取り組みが見られる。</p>	<p>①造形・絵画・立体・工作・鑑賞の5領域がバランス良く配置されている。また、1年間の流れに沿って行事や季節に応じて題材を選択できるよう配慮されている。</p> <p>②全体の構成や使用されているマークが統一されていて見やすい。カラーユニバーサルデザインに配慮され編集されており、誰もが見やすく、理解しやすいデザインで作成されている。</p> <p>②仕組みが動く様子の動画などのデジタルコンテンツがあることを示すマークが掲載されており、必要に応じて活用することができる。</p> <p>②学年に合わせた文字の大きさ、コントラストや文字の背景色などユニバーサルデザインに配慮している。</p> <p>②水性ペンで書き込んでみてもはじかず、油性ペンでも裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。</p> <p>③フォントの丸ゴシック体は目に優しく、学年に応じて大きさや行間が調整されている。</p> <p>③各教科書の冒頭3ページに「教科書びじゅつかん」が掲載されている。魅力的な図版が児童の能動的な鑑賞活動を促している。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">(イ) 教科・種目別の観点</p>	<p>①児童が造形的な見方・考え方を働かせながらつくりだす喜びを味わえるように、表現及び鑑賞の内容や題材は適切に取り上げられているか。</p>	<p>①材料・用具が題材の冒頭に掲載されている。「がいこくのともだちのえ」コーナーを設置していて、国際理解教育にも配慮されている。</p> <p>①鑑賞題材を各学年4ページ設定している。</p> <p>いろいろな紙の形や色、さわりごちを楽しむ(1,2年上巻)</p> <p>身のまわりのものをじっくり見て味わう鑑賞(1,2年下巻)</p> <p>集めた材料を空き箱に並べた友達のコレクションを見せ合い、互いのコレクションのよさを見つける(3,4年上巻)</p> <p>どんな音が聞こえてくるかということを切り口に作品を鑑賞(3,4年下巻)</p> <p>構図やモチーフの近い作品を比べながら鑑賞(5,6年上巻)</p> <p>ゲームなどで親しみのある世界や日本の龍に関係する作品の鑑賞をきっかけに各地の文化の違いやよさに気づく(5,6年下巻)</p> <p>※作品鑑賞のマナーなど、美術館での過ごし方も紹介している。</p> <p>児童が「やってみたいな」「どうやって描いたのだろう」と思う気持ちがわいてくるような表紙。教科書名が、巻ごとに変わっている。それぞれの成長過程に合わせた題名がついている。教科書名に使われている材料が、その学年で扱う材料で表現されている。</p> <p>巻末資料「学びのしりょう」に様々な道具の使い方、安全への配慮事項が掲載されている。参考作品、活動写真が大きく掲載されているので、細部までよく見ることができる。</p>	<p>①児童作品にサイズが載っているだけでなく、用いた材料についても掲載されている。アウトサイダーアート(アール・ブリュット)の作品を取り上げたり(5・6上 P2) 多様な国籍の児童が製作する姿を掲載したりして(3・4上 p.46)多様性を尊重するための配慮がなされている。</p> <p>「がいこくのともだちのえ」コーナーを設置していて、国際理解教育にも配慮されている。</p> <p>①児童の造形的な見方、考え方を促すようなコーナーを各学年2ページずつ2カ所設けている。(3,4年上巻は2ページ)</p> <p>身の回りの形の面白さ／隙間の形の面白さ(1,2年上巻)</p> <p>透明な紙を重ねてできる形や色の面白さ／顔に見える形(1,2年下巻)</p> <p>葉や石など自然の形や色の良さや面白さを感じ取る(3,4年上巻)</p> <p>絵の具を混ぜながら、変わる色や形の面白さを味わう／絵画作品を見ながら話し合ったりポーズをまねしたりしながら作品の良さを味わう(3,4年下巻)</p> <p>自分たちで作ったカードを見比べ、色や形の特徴を見つける／水の形や色を変えて水の良さや美しさを生かした新しい形や色の世界を楽しむ(5,6年上巻)</p> <p>美術作品の筆使いや絵の具の使い方を見て、違いや良さを味わう／日本の美術にふれて、良さや美しさを味わう(5,6年下巻)</p> <p>児童が「やってみたいな」と思う気持ちがわいてくるような表紙。</p> <p>児童がわくわくするような題材名とリード文になっている。</p> <p>学級全体で共有する場、個で活動している場、作品例の写真など、活動の見通しが持ちやすい写真が掲載されている。</p> <p>2学年ごとに教科書名があり、6年間でつながりを感じられるような題名がついている。</p>
	<p>②児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、表現及び鑑賞の題材に、工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>②自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、題材ごとにさまざまな表現方法が提示されている。</p> <p>材料・道具(必要なもの)が、題材を紹介するページに載っている。</p> <p>道具の使い方を特集するページがどこにあるのか、表記されている。</p>	<p>②自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、題材ごとにさまざまな表現方法が提示されている。</p> <p>作品例に実物のサイズの表記があり、用いた材料が載っているので参考にしながら制作することができる。</p> <p>題材マークや用具マークの形が、そのものを想起しやすい形を用いている。</p> <p>道具の使い方を特集するページがどこにあるのか、表記されている。</p> <p>「つけたいものに合わせて せつ着ざいを選ぼう」では、材料と接着剤がマトリックス表になっている。</p>
	<p>③「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。</p>	<p>③〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「くふうさん」の言葉が示されている。</p> <p>③表現しながら相互に鑑賞している姿が随所に掲載されている。</p> <p>③作家作品(古典～現代)を活動に関連づけて取り上げている。</p> <p>鑑賞のきっかけになる問いかけがあり、児童が想像を広げられるような配慮がされている。</p> <p>「小さな美術館」「つながる造形」(5・6上 P44,45、下 P30,31)</p> <p>各学年4ページにわたり鑑賞題材が設定されている。鑑賞活動を通して美術文化を理解するとともに、作品鑑賞のマナーにも触れられている。(5・6上)</p>	<p>③〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「ちろたん」を設定している。</p> <p>③表現しながら、相互に鑑賞している姿や対話が随所に掲載されている。</p> <p>③作家作品(古典～現代)を活動に関連づけて取り上げている。</p> <p>鑑賞のきっかけになる問いかけがあり、児童が想像を広げられるような配慮がされている。</p> <p>「教科書美術館」「子どもの心を動かす写真」</p> <p>③巻頭の「教科書美術館」では、身の回りのものから美術作品まで幅広く取り上げ、児童の感性に働きかけ、能動的な鑑賞活動を促すと同時に、見てそれぞれが感じたことを交流することにより対話が生まれ、言語活動の充実にもつなげようとしている。</p> <p>「図画工作のつながりひろがり」で、作品展の紹介や地域で使われている記号や表記の紹介がしてある。</p>